

令和7年の新年を寿ぎて



令和7年
1月1日
第63号
発行
内外政治
研究G
代表 宮田修一



宮内庁HP 令和6年天皇陛下のお誕生日に際しての近影

天皇皇后両陛下は令和7年の正月をお健やかに迎えられました。天皇陛下は2月23日に65歳の誕生日をお迎えになります。

天皇陛下は元日の朝まだき午前5時半ころ、1年の最初の宮中祭祀である「四方拝」に臨まれ、ご祭服を召され、庭燎（かがり火）が焚かれた皇居・宮中三殿の神

嘉殿前の御拝座から、伊勢の神宮をはじめ神々のおわす四方を拝礼されました。歴代の天皇陛下が毎年、こうして国家の安寧や国民の幸福を祈っておられることに、国民の一人として感謝したいと思えます。そして、今年こそは、皇統の男系を維持する安定的な皇位継承の在り方をめぐり、旧皇族の

男系男子孫を「皇族の養子」とする案を具体化させなければなりません。

なお、今年も昭和に換算する「昭和の日」など、政府による記念式典や記念事業などが行なわれる見込みです。

無定見な石破首相の限界が見えてきた!?

4つの危機で国際情勢は予見困難に

今年の内外の情勢はますます混沌としていくと思われ、4年目に入ろうとするロシアによるウクライナ侵略、報復の連鎖が続く中東紛争、台湾への中国の武力威圧、そして混乱の朝鮮半島――世界は今、大きく4つの危機に直面しています。

中国が真っ先に狙う

台湾海峡封鎖

中国は台湾への直接的な武力攻撃に先んじて、台湾海峡や台湾の主要港湾の封鎖を狙うとの見方があります。米軍に「軍事介入」させないための手法ですが、台湾が干渉するのは確実です。日本にとっても死活問題で、尖閣周辺の動きを見ても、その兆候は現れています。

そうした中、12月に訪中した岩屋外相は、王毅然外相との会談で「課題と懸案を減らし、協力と連携を増やす第一歩」としたい」と強調しました。靖国神社の社号票を汚して逃げ帰った容疑者の引き渡しを求めませんでした。石破政権がトラン

ウクライナ侵略が

東アジアに飛び火も

ウクライナ戦争では、北朝鮮が前線にミサイルだけでなく兵員まで送り込んだことで、ロシアは、北朝鮮と韓国で軍事衝突が起きた場合、その借りを何らかの形で返さなくてはならなくなっています。ウクライナ侵略が東アジアに波及する恐れも出ているのです。今月発足する米トランプ政権がこれにどう臨むのかはまったく予測できません。

「別姓」についての首相のホンネに警戒を!

翻って日本では、石破首相が、予算通過に窮した場合、衆院解散の同日選挙に打って出ることほのめかしました。その無定見ぶり、いよいよ露わになったと言えます。年末のテレビ番組では「今までやってきた大臣の5倍、10倍はしんどい」と愚痴をこぼしています。首相就任に際し、清和研や高市経済安保大臣などライバルを潰すことしか考えなかつた報いと言えなくもありません。心配なのは立憲など

が導入を目論む「選択的夫婦別姓」です。2月5日の衆院予算委員会で石破首相は「前の姓を変えなければならぬ」ということに対して物すごくつらく悲しい思いを持っておられる方々が大勢いることは、決して忘れてはならぬことだと述べています。立憲などは1月から始まる通常国会に別姓法案を提出する構えです。まさか、石破首相がこれを予算案通過と取引に使うことはないと思えますが――。